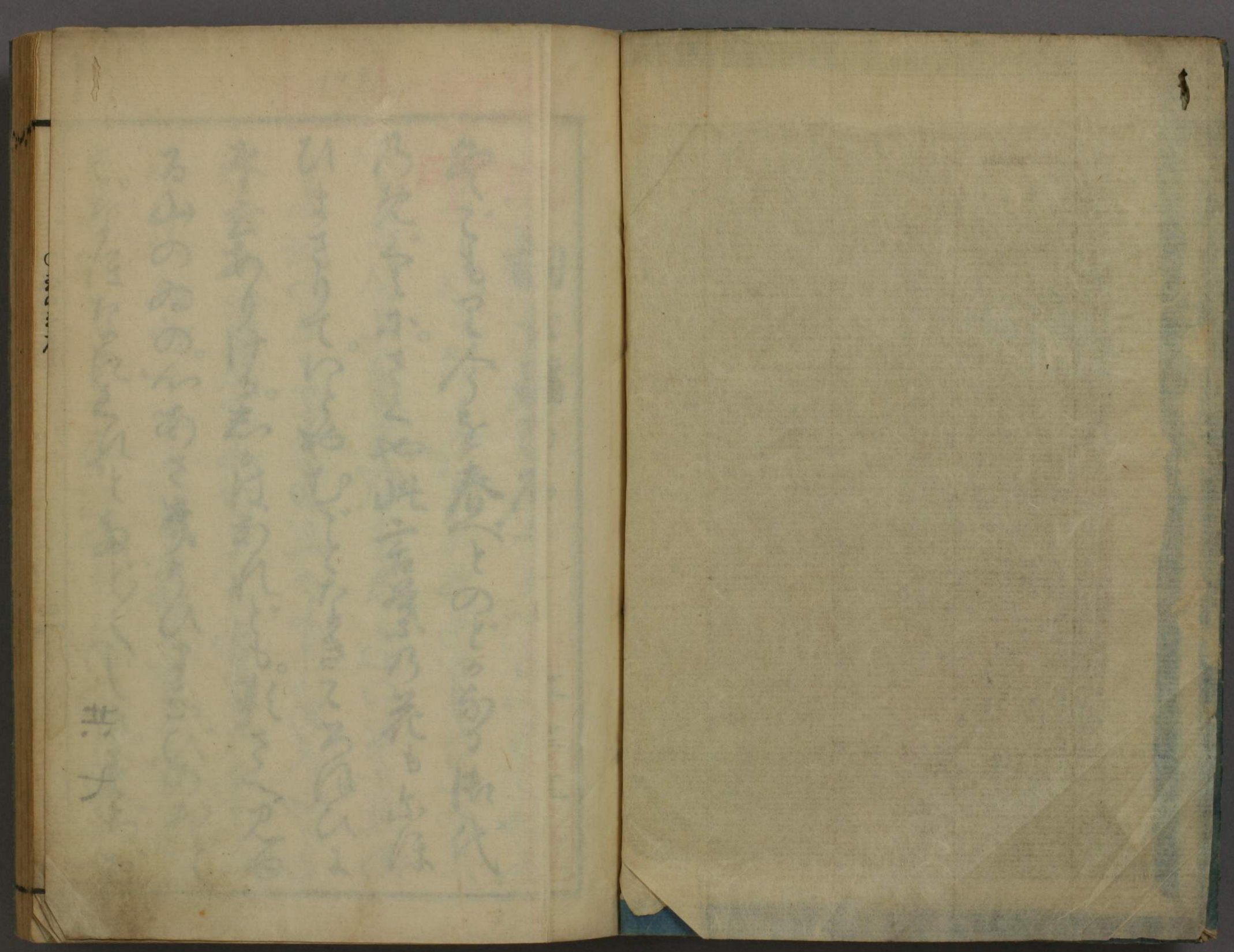
一葉の手引　再板

一

ホ 2
143
1



明治廿三年十二月十九日購求

同文會印

明治文庫 利2 143 巻 1

詞玉緒乃序

春べとのどかなる世代
でもて今を春べとのどかなる世代
乃光ぐ〻かさくもの花もふる雪
ひまさりていとやむごとなきてろはひよ
なる玉ありけるを。ものはあれども。景さくあ西
る山のゐのんあさ咲うひまふびのかど
ゝ。なほなれとも。なれと毎どくしきもとづお

ゆゑ。てをはのとゝのくなむ。くら
ぶの山ぶやうふてゆうむやうまて。おとゝす
みふ人の思ひなやむことゞあるまこ
とふ此いさゝもあぐるふ一あるいんとし
ゞ思ひえるも。狂よきゝぬのきゝざあ
しりるおちゝて。ともおちなくえあ
るを。みうまらなるゝで一もじのんきゝひよ。

雖波堀江のみをたくし。深きいろもえ
えまゝれてあるれさもおゝしさもとよるく
まさることさちをりてゝまとが沖の素ハお
くふうきゝと。筆の始ふ詠を。毎ゆゝなくと
けいりて。武さゝ舟のかぎりよ。野山乃
まてまでもいてゝぬくまるく。ゆきゝめ毎毎
へるんふ。もとより此とゝりを深く思ひと

まのひて。よごろついで此くらぶ。うえの
毛ふをてせてしげかくうまとまえの
まえやうおもかしつとりろうまます。
きいりころまづ鏡といいさうあは
一まきをたづアて。号こ色えあへ
アしを。かはたまびらうよとて。袋ようき
なぎさのをやかひやと色ひあり色。

いづこの松の志げき宮木ろぞおくろい
で。杜の毛野のいろ〳〵さつゝけ。ちは
ちどりあとさづかむかきつゝね
まひろる。此ふを号こ色ろまりて。このて
ろをゝまえまとりかば。てふをはたとこの
は志ぎ糸のおと志きくも。まゝとぐ
あくとけがてきふ。しも号ふうもと。

四ようおもしろ
おもしろのものなどくさくさくさ

ゑ。みどかし。ゆみどるかど
いとむとてのゝかびきゝも。まげ
ゝもとゞまゝ引うき。うつきゝまゝよの
帝城さへゝん。たゝへくいひろ。さる
ゝいをかぎりなくそんぢれぬの
ゝぢるなゝむゝも。ぬきつゝまゝ
んはるにゝゝゝゝむ。いま

一きはのゑんもそうるぬべく。まゝ
ゝえなくきえてもゝえしぬべゝるゝ
ば。ゝ結ゝをぢふいゝ結のえんるま
ぢれあるは有ゝ。まゝてゝゝぢ結
くみぢもし。結もしゝあむよハ。
いふめぢくゝ。ぬのかぢりゝゝぢ
なゝしやゝ。ゝゝの紫結ゑのゝゝ

そ。此ぬきはなるあ
ん。そもかゝるもあんそるるぞなきぞ。
よそへてなむ。

あゝ八度十二月こゝる

本居宣長

詞の玉緒目録

○一の巻

惣論 九のまきより

三轉活用 十六のまきより

○こ き 九のまき 十六のひら

き こ こそ 十七のまき

てき て〜 十八のひら

○ア る れ 十九のまき

ちア ちる ちれ 廿のひら

ちア ちる ちれ 二ツ 廿三のまき 廿四のまき

ア る れ

こ き こそ 十六のまき

ふき ふ〜 十八のひら

○ぜ ぬ 祢 十九のまき

せア せる せれ 二ツ 廿一のひら 廿二のまき

たア たる たれ 廿二のまき

めア める めれ 二ツ 廿四のひら 廿五のまき

○玉のを一

○ろと　ろる　ろれ　十四のえ
てると　てる　てれ　同
めると　める　めれ　同
○ぬ　ぬる　ぬると　三ツ　十六のひ　十六のえ　十二のえ
○とと　とる　とれ　二ツ　十八のひ　十一のひ
う　うる　うれ　二ツ　同　十六のえ
ふ　ふる　ふると　二ツ　同　十二のひ
○く　くる　くると　十四のえ
つ　つる　つると　十一のひ
ふ　ふる　ふると　十二のえ

せると　せる　せれ　同
へると　へる　へると　十六のひ
まると　まる　まると　十五のえ
つ　つる　つると　二ツ　十七のひ　十一のえ
く　くる　くると　二ツ　同　十のひ
ぬ　ぬる　ぬると　同
と　とる　とれ　十一のひ
ぬ　ぬる　ぬれ　十二のえ
む　むる　むれ　十三のひ

ゆ　ゆる　ゆると　十三のひ
う　うる　うると　十五のひ
○く　け　十六のひ
つ　て　十七のえ
む　め　十九のえ
○ん　め　十八のひ
きん　きめ　十二のえ
てん　てめ　十四のひ
○ま　十五のえ
ぬく　十六のひ

ふ　ふる　ふると　十四のえ
と　せ　十六のひ
ふ　へ　十八のひ
ふ　ま　十九のえ
らん　らめ　十一のひ
ちん　ちめ　十三のえ
ら　十八のひ
うち　十七のえ

○二の部

[illegible]上へうつるてゐをは　一の[illegible]より

[illegible]てゐをそ　七八の[illegible]

變格　八[illegible]より

本[illegible]ゆつる格　十[illegible]

てゐをは不[illegible]　十六のひより

一本にてゐをもを写〳〵倡ゆつる[illegible]　十三の[illegible]より

○三の部

[illegible]　六ケ條　一の[illegible]より

[illegible]　三のひ

[illegible]　四の[illegible]より　[illegible]　四の[illegible]

[illegible]　四の[illegible]　[illegible]　五のひ

[illegible]　六のひ

[illegible]　六の[illegible]　[illegible]　六のひ

[illegible]　八のひ

[illegible]　八の[illegible]

を　五ケ條　九の[illegible]より　[illegible]　十二の[illegible]

ぞ　九ケ條　十二の[illegible]より　[illegible]　十七[illegible]

[illegible]　十九の[illegible]　[illegible]　十九のひら

[illegible]　十八のひ

[illegible]　十八の[illegible]

の　十三ケ條　十三の[illegible]より　[illegible]　十七のひ

[illegible]　十八の[illegible]

が　十九十の[illegible]

○四の部

や　銀八ケ條　一の[illegible]より　[illegible]　二ケ條　十の[illegible]　十二のひ

[illegible]　十三のひら

[illegible]　十四の[illegible]

[illegible]　十四のひ

[illegible]　十四の[illegible]

[illegible]　十四の[illegible]

[illegible]　十五の[illegible]より　[illegible]　十七の[illegible]

[illegible]　十八の[illegible]

や 歎息 十八のひ〜よりと

や 雑 三ケ條 廿二のえ〜より

か 五ケ條 廿四のえ〜よりと

め〜と 廿一のひ〜

ゆの部 八ケ條 廿三のえより

たまと たゞ 四十二のえ〜

いづまと 四十六のひ〜 いづ〜 四十六のひら

ちゝとゝそ 四のえ〜

すや 廿六のえ〜

ぞや 廿四のえ〜

うそと 二ケ條 廿九のえ〜

うゆ 廿一のえ〜

いうふ 四十三のひ〜

いうゞ 四十三のえ〜

いつ 四十六のえ〜

さてそ 四のひ〜

まや 廿六のひ〜

ろと 二ケ條 三十四ひ〜 廿一のえ〜

うや 廿三のえ〜

あふ 廿九のえ〜

あゞと 四十一のひ〜

いうで 四十三のえ〜

いく 四十七のひ〜

あゞて 四十一のひ〜

あゞで 四十一のえ〜

○五乃部

あゝて 十二ケ條 一のえ〜より

ゝてへ 二のひ〜

りてと 三のえ〜

さもてそ 四のえ〜

さてそ 四のひ〜

さもてそ 四のえ〜

と 十ケ條 十一のえ〜より

ど 十七のえ〜

を 四ケ條 十八のえ〜

ホ 七ケ條 十九のひ〜より

て 廿二のひ〜

ホて 廿二のえ〜

で 廿四のえ〜

ゞて 廿三のひ〜

てへ 廿三のえ〜

ゞで 廿四のえ〜

ま 四ケ條 廿四ひ〜より

み 三ケ條 廿七のひ〜

よ 二ケ條 廿九のえより

てよ 廿のひ〜

ゞよ 廿乃え〜

よゞ 廿一のえ〜

ゝと 二ケ條 十四のひ〜 十六のひら

ゝど 十四のひ〜

ゝで 十六のえ〜

ゝてへ 十六のえ〜

ゝゞて 十六のひ〜

ゝゞで 十六のえ〜

ゝよ 十七のえ〜

ゝゞよ 十七のひ〜

ゝよゞ 十七のえ〜

志 助辭 廿二のひ〜より

志を 二ケ條 廿六の巻〜 廿六のひ〜

らく 廿七のひ〜

まく 附ま 廿七の巻〜

をく 附を〜 をき 廿八のひ〜

かり〜 廿九巻〜

○六の巻

むすびおとこ

志き 一の巻〜

なるま なる なれ 二のひ〜

ぬ ぬる ぬま 四乃巻〜

ぞ ぬ 祢 一のひ〜

くるま くる くま 二のひ〜

つ つる つま 三の巻〜

紐後寸十九段より寸尺二段までの事 五の巻〜より

ん め 八のひ〜

きん きめ 十二のひ〜

ま〜 十六の巻〜より

ち〜 九のひ〜より

ぐる 附ぐ ぐま 廿六の巻〜

らん らめ 八の巻〜より

なん なめ 十三のひ〜より

ら〜 附ら〜 十九の巻〜

かる 廿四の巻〜

○七の巻

古風記

美榮条中てふをはしるべつら三の巻〜より

日条中てふをそ遠へるよ例てし物らざる巻 六のひ〜

同系世家共一つの格　八乃ゑ〜

同系中てゐをはの訓を誤るこの　九のゑ〜

古風の辞づかひ　十一のゑ〜より

を　くを　をも　をよ　十一のゑ〜より

ぞ　えぞ　うぞ　ぞも　十四のゑ〜より

の　十六のひ〜

や　えや　うや　やも　きゝぞや　十七のゑ〜より

か　うを　うをと　十八のゑ〜

ゑ　ゆゑ　ゆゑや　ゑも　ゑぞ　ゑをえ　廿二のひ〜より

ゐ　廿四のゑ〜

ゑ　廿五のゑ〜

い　廿五のゑ〜

だを畧く格　廿六のゑ〜

ぶよ変ふゆ　ぶよ変ふえ　廿八のひ〜

よゐ似るを　廿八世ゑ〜

ぞよ変ふよ　廿九乃ひ〜

ぞだ　三十のゑ〜

かんのこのぎん　廿二のひ〜

ゐを、　ゐをゑ　ゐせぬりも　廿二のゑ〜

がゐ　がゐ　廿三のゑ〜

そ孫　廿五のひ〜

くさぐのやをめ辞　廿六のひ〜

らまぶを畧く格　廿七のゑ〜

みよ変ふうと　廿九のひら

孫だ　廿九のゑ〜

ぞるうと　ぞるう　ぞるを　ぞきん　卅一のゑ〜

さゐ　卅四のゑ〜

すの　卅五のひ〜

ふて　八五のひ〜
ふと　八六のえ〜
らく　八七のひ〜
ふく　八八のひ〜
く　八九のひ〜
まく　きまく　八八のも〜

文章の部　八九のえ〜　ゑと

○てふをは。神代よりおのづからの音にて。その本末をうるはしくあらまほしくぞ。ん有てなどいふもいと中苦しかるべきまでとおのづからくのひらくたづつる始しいをさく〜おろかなる代。さらぬりては。ふかとさしぬ用まとこのくのへをいやまりて。なほりてむづかしきびひのをたるゆゑ。おのゑ今此書をうけあらはせるハ。をのさぶまり代つぶさふをしへさやさんらてあると。

○近き代に成人。てふをそ〜漢文の助字にめしといつりぶそ石さとるやうなる。ふるさとくのをんにをそ人おそらめり。まことふい

とよく似てはあれどもとゝ思ふを猶てふをはをくまるゝものゝふるん
有けるおのゆゑそうもかゝるべきの助字といふるゝ物そ。その本と末
をとうひてゝしてかゝるへあるすゝまぎりハなれりのるをて
ふをゝくたしゝふひちぐまをもあしきていさゝうをくるゞひぬを
ぐ。云の紫そのそぐ。云もいのもをべゝいづゝぶとゝをんなる
をゝ成いまぐしれゝとがゝハさゝ物をて。通き弓ハ云のゝくよむ
と思ひていゝくこをふんをゝ人ぐふゝをゝづしてハゝゆゞえん
りてゝこゝあふゝるゞむゝふあゝきぞゝしゝをゝ物字といふ
物とりゝゝゆゞゝゝのゝ思ひゝをたゝんハ仮本末をバゝ物
へんりのゝとたりひゝるゞゝでたゞおのゞんゝりのゝまりをつゝ物

をべりあをバいよくいみしき心ゝのゝ引出るんりのをや。
○又あゝ人てふをはの本末ゝのへを定まりゝゝやゝゝてゝみゝる
ゝらずゝをゝうゝびゝあゞおのゝゝをゝのゝおもひきゝゝゝをべゝふゝる
ゝひゝくゝゝとかくゝとゝゝゝひゝをゝへきゝをゝざゝとゝいゝりゝごゝはいはし
へのゝゞゞとゝゝをゝてふをゝをゝを。ゝゝゝくゝと考へゝあゝ先ゞゝて。おゝゝる中ゝ。
ごゝをゝゝれゝゝゝのひのゝゝゝゝゝゝゝゝぬゞゞゝゝゝゝゝゝゝゝをんゝゝゝせ
てゝゆゝゝをなくゝゝゝがゝゝゝゝゝゝゝゝ

うゑふるうてくうちまづやそ。人うゑへうとあううさぶあうう。いふ
しへ乃よ紅あうどものた。うあうびたふうでハえたうぬ。おのづう
のたとびりうて。定まりつう抽て。るんさうれだかりそ絶あし
そまこ紙そるまて。うさうちさかうらをバ。番ぢうとくうふべきふ
ううど。さぐいづうまづどもうう。ふうれさをたづめて。おのうとに
あんまうどひようべきうどなうとうう。
○てふそはのそうのへそ。その本まをうなへあそせて。いううへのさぶき
ア紙あやまうぬをあんむひみうはさそ絶れだ。おのまされ糸紐繞
くうふものを作りあう。三條の大緒を結ううて。ひさぶまりの
うぶりをうういううきそはやづて此書は同源のやうまて。てふ

さそうの大むひあふしいうまバ。此ゆをを考へんすはつあふのえと繞
をかうくうて。えうあおきて。うひてしえべきあとの三條の
大づるさぶふうりはてむ。むさぶうくまうんうぶはてふをはも。
さぶうくおのづうけううふをとうまて。けのはみぶと
まなううむう。
○紐鏡の三條の大緒くハ。右そ[を][徒]び一條。中ぞ[の][や][伊]の結び一條。左[ま][そ]の結び一條。
三條うてとまあんてふをそけ大うありうう結びとハ。言のうぢめ
をいふさうは一首のうぢえのそうとうぶ。ぶとの句にまれ。語の
切て。那そ。ぞそのうぢめまて。上て。おうてふをはの結びうう。さて

この三條ハ[illegible]辭のさゞきりにあるふ上を[illegible]
[illegible]徒日ド といへを[illegible]とむすび。[illegible]
[illegible]のや何日ド といへを[illegible]とむすび。[illegible]
いをを[illegible]結ぶるゞひをたゞもよう[illegible]まへ[illegible]ゞも。[illegible]徒日ド
といへを[illegible]結び。[illegible]のや何日ド といへを[illegible]結ぶ。又[illegible]徒日ド といをバ
[illegible]とむすび。[illegible]のや何日ド といへを[illegible]結ぶ。何よりて。かくうへさゝふ
もあるゝゞハ後の[illegible]人[illegible]まへ得[illegible]て。[illegible]ハ紐続のさゞめ五段の内。
上二段ハ右のゞりき。中のゞりき。[illegible]
結ぶ。けゝ[illegible]結ぶ格[illegible]を。下三段ハ[illegible]。[illegible]人[illegible]まゞひやも。[illegible]
[illegible]徒日ド といへを[illegible]つ[illegible]ぬ[illegible]結び。[illegible]のや何日ド といへバ[illegible]つ
[illegible]結ぶ言[illegible]。けゝ[illegible]ひのさゞめをバ。後の[illegible]人さゞ[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]。皆[illegible]ハ[illegible]ふまゞ得[illegible]。けゝ[illegible]ふあり。けゝ差別ハ
次[illegible]

[illegible]ふ[illegible]ことまへ[illegible]ゞ[illegible]大[illegible]の三條のさゞ[illegible]とた
つゝて。[illegible]まへ[illegible]べし。
○[illegible]べ[illegible]乃何づ[illegible]。切[illegible]ゞ[illegible]ゞ[illegible]ゞ[illegible]ゞ[illegible]ゞ[illegible]
を。[illegible]ゞ[illegible]ぬ[illegible]べし。[illegible]を上の件ハいつ[illegible]ぬ[illegible]つ[illegible]と[illegible]つ[illegible]
[illegible]この例[illegible]。[illegible]ぬ[illegible]つ[illegible]ゞ[illegible]
ゞひのぬ[illegible]つ[illegible]る[illegible]を切[illegible]辭[illegible]。[illegible]を[illegible]ゞ[illegible]ゞ[illegible]
枝を[illegible]。[illegible]ゞ[illegible]ゞ[illegible]ゞ[illegible]ゞ[illegible]ゞ[illegible]ゞ[illegible]ゞ[illegible]
枝[illegible]ゞ[illegible]ゞ[illegible]ゞ[illegible]ゞ[illegible]ゞ[illegible]ゞ[illegible]ゞ

の侍くにわり。侍ぐく辞を中行の侍くゐ行ふし。件のぬ つ ろ く ぬる
侍ら ゐく ゐの例に准へて くいづ ゐを考へそゝるべし。さて み。切くゐも
侍ぐく孤を用ぐき何もかり。関成結ぶ新古のく も つ ふ ろ のる
ぐび。又 ん らん なん などのおくし。こゝくハ何のつくねぐにちぐびて。切ゐ
をつぐ紀もちるし。ゐも続の分四三段 く 右行 け 左行 よる。結りの てん 右行 てめ 左行
まで。合せて十一段の辞ときし。此十一段を皆切くも侍くもはぐき
左中。右切くゐ中切くゐ一つふるもろ。考へ見べし。
○ゐを続の右の切の侍くハ そ を 徒 の結び辞し。中行の侍くハ ぞ の や
何 の結び辞し。左切の侍くハ ちそ のむすび辞し。かくて右の切ハ上よりへ
ふめくゐ。切くゐ辞なゐ。ゐとり結びふまぐひきを。中切ハゐる。下

へ侍ぐく辞なるふ。ぞ の や 何 の結びとなるゐ。いまぐしき事ハ結ひあ
ゐぬべゐを。今ゐの仁侍を考くいふべし。まび中切を皆つゐよハつぐ
く辞なる様上よ ぞ の や 何 のてふをそなる時ゐその結びとなりて切
ふくし。侍を一つ二つあぐていさぐ。古ゐ系ゐ下ふ心ゐゐ見つゐとぐ古し
様ひゐく。日上よりゐふのくかる日ゐそ見し。掃ゐゐ。び二つの ゐ ハ日ど
ゐ なるふ。二つゐをふいをゆゐゐ五ゐの ゐ まゐ中の切の辞し 見つゐとぐこ結ゐハゐし。掃ゐくづきて。
常のゐぬなり。切ゐを見ゐぞ見しくの方ハ上り ぞ くなる ゐふ。ゐ結びくな
ゐて切ゐてゐり。又日系ゐ上ゐ。ふるみくもゐゐぬさゐくむゐ。ハ
下にゐくなるばゐやをかるぬ掃ゐゐ。び二つの ぬ を用ぐ ぬ なる
を。ゐゐと又不のゐゐのぬ ゐゐ中の切の辞し ゐゐめぬの方を。掃ゐへ侍ぐきて。常ゐゐ方ゐぞやそ

わゝぬの方ハ。上ゝ[や]とゝけるゆゑふ。切ゝ[ゝ]ゝのむすびゝゝゝ

てゝいひそつるるたゝえて。むゝ〜はゝ人〜のさゝにいひあらざりけるこゝをれ
ぞいぐ〜けうんと猛くつうふくがひをのゝくて。ゑゝぐるまハうをゑ
き男ひぬ人きゝ。ゝゝ〜ぐありぬべきゝ〜より。かの大綱の三條の法〜
の。三轉の辞。毎ゝ。三轉とハ。上のゝふをゝゝ。ゝゝゝゝ。三ゝゝふゝつりゝゝをつゞし。
ふゝ。皆ゝゝゝ。古き言むゝゝゝづきを引出ゝ〜。けゝにつぎ〜はゝ〜ゝゝつぎて。猛
きゝたゞ〜〜ゝかゝん人ゝゝゝゝ

三轉證歌

紐鏡才一段

右行 志　中行 き　左行 ゐ

古十三 有明乃つきなく〳〵日をれよりうらなりの [た] る [丨]

同 ちるとぞ見ゆる又もうれる [た] 立ぬなど [丨] 人ゆくうらぬよふ〳〵まへで

同二 いつまでかみべゆこころの [ゐ] ぐれん [ゐ] 花〳〵ちるぞちよも [も] へぬなど [丨]

同六 [ゑ] 孔宮ハ春ふりちきてみちも [も] る [丨] 春ゆてうつ人〳〵あられで

同十七 おちくるきゝ滝のみなそ春つり老ゆきしる [る] 春きぞる [丨]

同九 みやこ出てりふさらゆ系いげこゝ川 [ゑ] 風さむ [丨] さろとりせ山

同十四 かくなりをゝとゆ系をいづらゆ袖てにきん人さへ [ぞ] う [き]

同二 のとろあくちる [ぞ] すぐき [き] さろゝなみまて [ず] 帝ゝてのゝられで

右

ぞ	徒	を	た

中

伊	や	の

左

そ

同十二 [の] 乙とりゝて袖をおり人なで秋の田ふいあなどのそよとうつ人 [の] あき

○の結びまてぞあなでゆてはきゝ〳〵ふ〳〵ぞ〳〵ふ〳〵ぞ〳〵ふ〳〵ぞ

中

右

や	の	ぞ	徒	を	た

新千七 あまをぶねこぎいでてをちかたのこゑとぢてゆくほどを うゝめ

後六 秋ぎりたちこめて [た] うゝ

左大 いづちかあるらむ へうん 菱原や 伏見の里より行まく [を] [

拾十九 ほどぜをゝる [を] る

万八 衣ぬぎすてみまぶたくとを極 四位 おきとゝ 恋へ ちかるゝ

左右 ゆるこひ [ ] 今をとゝてしらがひのかきわに咲るやまを 拾み

円一 春ちかき日のゆりにあるゝ 永るとどかしらの者とある [ぞ] ゆび [き]

円九 心ゆるせ春ちかすゝ [ぞ] うゝめ [き] いづをみやこのさうひゆるゝん

後三 吹風のさそふ 和とは ちるをあだゝ 散ゆる花 [の] ゆひて 恋 [き]

左日 秋萩を 名づきゆゑ バきりぐを ほゞ 孫ねおゝ [や] ようゝ [き]

左

そ	ふ

円二 花のちるを [や] ゆび [き] 春ゆゝ ゝの山乃うゝひもの 散

後九 儀 弟 ちかい小せのちの 系 恋 ゆゝ あまりて [ゆ] ゝ人の 恋 [き]

後十 ゆゝ ゝえを ばゆゝ ゆゝ ちかい 清みを 今を 恋 [て] き 名不 [ ]

左日 月 えを バちゝに 和 [て] そ ゝ [ ] 永 [ ] 秋 ゝ ゝ ゝ

右

え	た

後三 風ゝ ちを ふゝ まゝ せん [ ] ちゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ [た] ゝ [き]

円二 人の形 ゝ ゝ [た] ゝ ゝ [き] 対 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

万十一 かゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ [を] ゝ [き]

右 [き]

中 [ち]

左 [ち]

才三段

○ゐのを一

中

と	徒	ぞ	の	や	何

拾十四 あ桜のもみぢまだ風を[と]そうり[き]身はあるかのねこぞうりる
五三 みヨ山のとがまそゆふみどりあかくのこれり春くとおもひ[き]
同 人ごとをあがこちちうこしのそざり[き]ひあるごとおりふあるがせ
後十 たるおそうこ出され〜祝よりも永[ぞ]よるべとをきこらせ[し]
古 みどりろる心とつ春と[ぞ]ものはえ[し]秋をいろ〜の花ぞ有りる
[し]
後七 ろふこれ秋〜をまれ春ゆるハかりよ[や]永を人のゆの名[し]
後拾十八 いそぬをはく〜みし〜秋よりなし〜ものみる[や]ろ〜[し]やまぶきの花
古十六 花ようを人こそいづふりにを[いづま]をさ花ふ立んとうえ[し]
同 [あ赤]ぶとうきてぬぎりを[し]春ぶりるる秋ごろふ雁べをふれるを

左

安

拾十 あをてふをどりをまぶ花をみよりる[人]をまぶ[こそ]見ひそめ[し]ら
古 きのふ[こそ]さあへうり[し]いつのまふいあぶをよぎて秋風のあく

右

徒	を	た

古十三 よるべなを身をこそ春くへぶそつま[こ]ろ[た]春が新とあり[ま]き
後三 春こぶそう[た]ら[を][ま]き[さ]立ふりまさへりふ吹そ〜ゆる式
同十四 をぐ〜ゆ伏見社里のたま〜より変ひ〜人のあと[を]たえ[ま]き
古十四 かくこひん物とハ新[を]おりひ[ま]き仏はくぞまさ〜ゆるる
保元物 あがをてのをの先ひす〜き竹川ふよハ立物。あるひろり[ま]き
古十三 ゆ花ろをんのやをにまぶひ[ま]き美ろつとハ安人はぶりよ

小四位

右 ふき　中 ふし

中

ぞ の や 何

後十 高砂のこきこゝみたの山ようと枝乃ぞをバ永 ぞ 見え 尓

古十又 ちぞの山ふるとを見て ぞ ゆり 尓 ぱらき人よりもろこしじろて

尓

後九 永しぐふと見てしぞちゆゝ山の井ハ濃きよりまさる や たえ 尓

古十 郭ち巻ちゝ巻ちよ や まじ 尓 まてゝハきけどゝろよしもあき

新十六 八重ながゝ多もちゝゝぬ山ぶきぬ など 九重ゝきさびうり 尓

和ちゝ和ちゝ東歌 神代より いく をゝ 尓 をゝきこゞ袖ふる山乃みゞ垣乃雲

ぞ

右

古十二 ゝゝ孫尓ゝゝき人を見てゝを美てふ拍 ぞ 拍をゝ見 てき

てき 右

てゝ 中

寿五位

中

や の ぞ 徒 も ぞ

後十 ちびつゝも明日だゝり ぞ ゝ見てゝ てき ゝゝゝゝゝゝゝゝゝん

万十三 かつゝゝ人を見ゝゝぬぞ ぞ 拍ちゝゝ ぞ いも孫うゝ てき

後十三 尓雲ちゝ一ゝゝに見てゝゝど立出て見代おゝひゝめ てき

拾十 りゝ世の花尓やどりてゝとゝゝ てき ゝゝ世ゝ樣乃美ゝぞこりゝる

古十一 ゝ世川 花波ゝゝゆゝく ぞ 人を見ひて見 てゝ

てゝ

てゝ

右

何		
ぞ 右	ぬ 中	孫 左

拾遺長歌 初の大つるかまを折られたるの 後撰 たま ゆるうみぐるまて和ハ見むすをえ てゝ
いく 見せうなきふゝ てゝ 新古 かとをみ山乃はちみぐるまのそら

え	を	徒

古十三 美濃 みハ行〳〵とやとゝぶ色へぐとうつ ふゑとめ見て え うつ ぎ
後十三 うつゝみ え 見せど稀る色 ぎ 新 なきうりきのふの美をいつゝるすれん
古八 ゝるとうるてきふ〳〵んの月ゆ〳〵うつ色バうつるさまふハ色 を ゝられ ぎ
月五 ちゝやぶる祝代 を きゝ ぎ 新 立田川〳〵ゝ色ゝゝあふゝ ふゝしハ
新十 古 月ゆ行ゝゝむゝゝゝのゝゝれうぶりゝて れ ぎ
後拾三 行〳〵引の山ほゝゝぎ次のゝゝゝ ぎ 大ゝゝゝ ゝ ぎ

中

ぞ	の	や	何

古二 ちゝゝ系ゝ〳〵ちりぬゝゝゝ ぞ 風も吹あへ ぬ
月十三 ゝゝ ゝゝ ぞ ゝゝ ぬ 新 むゝ
月云 みゝ〳〵ゝゝ山のゝゝゝゝ系ゝて入ゝ〳〵人 の ゝづ色もせ ぬ
後八 流色ゆ〳〵ゝこゝりゝゝゝさへ や ゝゝゝ紅葉ゝゝハゝゝ ぬ
古十三 月やゝゝゝゝ ゝ や ゝゝゝ ぬ 新 身ゝゝハゝゝゝゝ
新三 友葉はゝゝゝゝれど郭ゝ ゝゝ ゝゝど 氣家ゝ 一ゝゝゝ せ ぬ
月三 ゝゝよゝハ たま ゝハゝゝ ぬ 新 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝん

左

そ

古十三 おり人ぞと人をづみのゝゝれだ川とえゝゝ てそ 海ゝ 孫
月一 ゝゝ乗乃やゝハゝや色 梅花いろ てそ ゝて 孫 新 あやハかゝ

右　中　左

た　を　徒　ぞ　の　や　何　あそ

古十九 人ふかくむつきたちあきふ　た　ゆひおきてむかしをしのぶやをと　と

後十六 をとゝしふかくはるかなる笛竹の節のこちふ　を　ゆふこゝろあと

風雅十五 恋 きにのこるきくけばうひあしゝ時をあとかうつんとおりふこゝろ　ぞ　ゆと

古十九 桜よりはるとなるを恋のせゑゝとだせんくさゝ　ぞ　こゝ中にをる

同 うゆれ宮ふかくそきつと　の　おとくくといひもをる

松ざくら 元輔がのちしいたゝ　や　こゝろひのこゝにゝづとてハをる

古十八 ゆををのこゝ思ひたしぢたちゝふき　いつ　ゝハ雪乃つきゆゝる時ある

後七 あど、あ身ちくハ秋葉くゝ咲ふゝむ　同じなぎきの枝ふ　てそ　あき

○世俗きゝなぎて結ぶこの八例もくゝ知られど暑ゝ

右　中　左

た　を　徒　ぞ　の　や　何　あそ

古十九 人ふかくむつきたちあきふ　た　ゆひおきてむかしをしのぶやをと　と

後十六 をとゝしふかくはるかなる笛竹の節のこちふ　を　ゆふこゝろあと

風雅十五 恋 きにのこるきくけばうひあしゝ時をあとかうつんとおりふこゝろ　ぞ　ゆと

古十九 桜よりはるとなるを恋のせゑゝとだせんくさゝ　ぞ　こゝ中にをる

同 うゆれ宮ふかくそきつと　の　おとくくといひもをる

松ざくら 元輔がのちしいたゝ　や　こゝろひのこゝにゝづとてハをる

古十八 ゆををのこゝ思ひたしぢたちゝふき　いつ　ゝハ雪乃つきゆゝる時ある

後七 あど、あ身ちくハ秋葉くゝ咲ふゝむ　同じなぎきの枝ふ　てそ　あき

○世俗きゝなぎて結ぶこの八例もくゝ知られど暑ゝ

右　中　左

せと　せる　せき

新古 ちゝ雪のふるゝ神枝うづもれて春のあゆゝ　た　ゆをとり　せと

文本 ゝりろぎハ神のゝをしゝ　ゝそ　ゝゝ　ゝ　ゝ　

右

た	を	徒

五十八 ヨがつかもみやこ社こもりぞきむ」よ紙ちかく人 た つゆ ある

四十六 みる人 を 花の衣ゑ一ありぬ ある 昔はきりとよかりしぐふせよ

拾四 神奈月ちぐさしるし」著の木のうつろる葉ふ麻 を なく ある

五十九 雑波ある京ぐ社橋 を つる ある」方八をぐをあふたとへん

四六 みよしのく山乃ちく雪法りしかさむくあるとまるる ある

四七 秋のあふ人まれ雪ちゑと ある」涙ちとわていぞうぶ〜ん

四三 おゆそ山々さ越ちぬば涙ぞ袖ちるふ今 ぞ あく ある

四四 秋風ふちつ厂げよ ぞ きる ある」ゆぐむづちとかきてきつ〜ん

千四 文博物の義やをし〜社つぬなし〜ん」花咲しより夢 の いろ ある

源氏物枝 法とあさ八うれよあつよふうりゆくを立きぬ人 や 人よちと ある

中

や	の	ぞ

右

や	伊

五十九 ちとうしば思ぞとやたつひをそぬ」 ある ぞ よの中社ふだちき ある

四八 第は あふ ちつよ ある」恋ちい きのゆの間ぞりてをせふるふ分

度十八 あそれてふあちふちつ〜八社ちとたいとでハえ」 て そ ちつ〜ぬ 袖 ある き

五十四 ちちちん し そ 今八あちと ある き」こきそくばるちちる〜社ちつ〜ち し 袖 紙

右

た	を

たを 右 たる 中 たき 左 才十 紙

金四 あそ ちちのちつ を いをのふまを せ たて」ちみやちげちる天が法代ちゆ

万十八 ちちつし紙長ちり社ぎまへふあきちへさへぞおのちとおのやちつ を つぎ たて

たて

中

徒	を	ぞ	の	や	何

拾十 年もよしこゝひ を え たる 玉の宴たのしくおりやゆるうれ

羽一 兼盛集 ゆる置えちえきふるり みゝ 世のみうきゞ雨降すゝこえ たる

文末 後撰 嶋邪乃ちゝをさめ たる いゝづる社光ゞうゞ毛ゝ社そゝ

源氏若紫 よる波のちゝうもゝうゝでゝうの浦ふ玉藻あびんゞ ぞ うきたる

船拍集 衣ゝ ぞ ゝさハねゝと たる 思ひ稲の美路よさくや面をふゝゝん

千十八 和歌式ア 物名 萩の独ふゝをえ人やきゝうゝきん 浪のみゝこと の ゝさ孔と たる

源氏若菜上 うゞひゝの言ゝこひてさへづるハあゞゝうゝ花の色 や ゝけせ たる

古二 嶋 花をちらさるゞゝにあゞさまれど たき ゝハきをゝうゝをそ たる

左

を

源氏おゝゞ りゝさにもそぬ波ゝよ和ゝて風ふまゝする 舟 こそ うに たき

右

え	を	徒

左二 ゆゝる ゝゝこなりふゝ しゝうゝ社みやこゝをと ゝゝをうゝぞ花 を さに ゝゝと

円一 年のゆふ ゝを ゝきふ ゝゝと 辺ゝくせをこぞゝやいゝんゝうゝやいゝん

円 あゞゝうゝくみふゝをたて ゝと 樣ひ多ふまれゝる人 を まち ゝゝと

円十三 紙の秋 を ゝをのゝこ ゝゝと ゝゝやといへゞゝうぞ古ゝゝ ゝゝゆゝるものを

円一 宮ちかく 梅花うゝゞ ゝゝうゞ ゝゝうゞきゝゝ ゝまれ人のゝふゝゝやまれ ゝゝと

円三 ゝゝゞゝゞの池のゆゞゝゝを 咲 ゝゝと 心部ゝいゝゝうきゝゝうむ

中

ぞ	の	や	何

左

ぞ

右

の	ぞ	徒	も	そ

○むのを一

○九四

右 光孝 中 光孝 左 光孝 第十二段

後大 いせ海る川し一筋よりあづまへくだりけるに、すみだ川といふ所にいたりぬ。

日十八 海とのみ思ひつゝ、都のあるそのあたりにあらぬ。

日十八 都鳥 すみだ川 なかれてふかくなるにつけて、ちかくとハみやこの人 と いふ めると

後拾三 水月 西の日 を なぎぬ めると

後撰一 いせ集 うめの花 さくらの花 ふぐの花 ちへ まちてふる 雪の いろまがふ ると

左 三田川 紅葉 みどりなる めると ちりぬ ば 秋 中 やたえぬ

日十八 ちりのこる きんきてもいとへ 雪 ハ 後 乃 さくらの花 風 ぞ ちる めると

左 花 ぞ ちる 兼安三 唐田社 方々 花 ぞ ちる 雪 ぞ ちる めると

おきの川 ちる ちる やう ちる ん あ ち る そ る 芦 の ね の ぞ の 三 さ ら ぐ める

中

や　伊

左

そ

素戔嗚之尊ごとし

て　ゐつとたをつめと＝まゐりあふちひまつりて言つぐらをば

め　め

右

く　く　く

せ　せ　せ

て　て　て

中

く　く　く

せ　せ　せ

て　て　て

左

く　く　く

せ　せ　せ

て　て　て

廿十三段　廿十一段のくと異なり

廿十四段　廿八段のせと異なり

廿十五段

右

へ　へ　へ

め　め　め

中

へ　へ　へ

め　め　め

左

廿十六段

廿十七段　廿十二段のめと異なり

廿十五段を徒言とくあれあふちひまをそ一つふまずへ出せる

後十五

いせの海の沖つしらなみ立ちくるしまもとどかきあつめ

た　言ふをば

め

百十六

ゆゑ不妹をぎくらし風吹て浦乃おきべより雲たちのぼり

く

百八

ゆゑ言の葉の下葉も秋風もいまぞふりぬばかく

で　うみ

で

中

ぞ	の	や	仰

千二 はなのしたかぜ [ぞ] [を] [ゆく] ＝山吹の花乃下ゆく井手の河水

後拾一 いつの坂乃雲をやまとたつらん ＝寄月の山 [の] [ゆく] [を] [ゆく]

古一 春霞きりを人をてくひ乃ゐた花ぬき置たきみ [や] [ゆく]

同三 秋やくるきた [や] [まぜ] [ゆく] ＝郭公ひゞ宿をしもとかてふなく

拾十七 たゝみぢのこの山ぬ乃ともゆくしたをゆくも [あど] [ゆく] [ゆく]

右

空

古一 わぎもとなふ [てそ] [ゆく] ＝橋姫の[illegible]ふまれゆく人もまちゆく

[まつる] 右 [まつる] 中 [まつる] 左 井十八 注

右

七	を	徒

古九 みさゝむらひけうさとやせ[illegible]体みぬ木の下蔭 [を] [あ] [まつる]

同八 [illegible] みやまふを [を] [ふ] [まつる] ＝[illegible]の[illegible]より拙人をくゞるうん

古一 春日野七ゆゝみやきて[illegible]蔭もこゝ[illegible]ゆゝ [を] [ふ] [まつる]

正治百首小侍従 なりゆく [を] [こと] [まつる] ＝同じく八ちくのえとやきみをつゝしし

拾十一 [illegible] いさりするとさはあぬ人出ゆくし[illegible]ゆゝ [ゆく] [まつる]

拾十六 秋を[illegible]て月をゆゝ[illegible]ゆゝ [ゆく] [まつる] ＝いそぢの[illegible]ふをぎくらん

中

ぞ	の	や

古七 きりぐすいとゝ[illegible]秋の風のきき[illegible]ひハ [ぞ] [まつる]

拾一 ちかくて [ぞ] [ふ] [まつる] ＝[illegible]の[illegible]ぞ[illegible]べゝ[illegible]

古一 ちるとゝて有べき物を 梅花ゝ[illegible]ひ [の] [ゆく] [まつる]

後十二 うちゝ[illegible]ぞゝ[illegible]ゝ [や] [かな] [まつる]

○おのを一

左

や　何

そ

右

ち　と

ぬ　右

ぬる　中

ぬき　左

貴十九帖

貴ゝ集
ゆびゝ人の袖を［や］かまる［ぬ］山川をなみだのごとく落る涙の
千六
あるかぎり玉簾の底ゆうにまゝ流ゝ出ぬ［たき］ゆまさ［まる］

［まく］

古二
春の神ゝ［ぬ］つるつまんとあしの根をちりかゝる花ふる［ち］まゝびぬ
同一
年ゆきゝバよろひ［ち］おい［ぬ］ゝ［ぬ］ふるあまで花をゝ［ぬ］れバ袖ぬ［ぬ］ひもゝ
沙九
さゝに川のゝ［ぬ］きゝ清くさゝみゝゝバくるゝゝき月の新［と］ゝ［ぬ］び［ぬ］

中

と　徒　ぞ　の　や　何

古十七
あれて［と］久しく成［ぬ］位のえゝきゝの初めおいくよゝ成ぬゝん
同九
第ゝを［ぬ］ゝをおくゝゝ川ゝをゝ［ぬ］ひつ巻の松ゝ［ぬ］ゝ［ぬ］び初［ぬ］
同一
梅ゝ［ぬ］おゝてゝゝるゝ［ぬ］ゝ［ぬ］ゝ［ぬ］

左

そ

右

れ　を　徒

つ　右　つふ　中　つき　左　才二十段

大うさぎ秋くるかゝ江ゞ才　こそ　このわしきねとゝ思ふと　ぬき
後拾三
孫ぬよ　こそ　教つり　ぬき　部ふきく寝ども　一こゑ　ふよと

後云
花ゑよと出ゆ〜ものを秋の野に　まようひてなふ　を　ゝし　つ
古十九
才　れ　ほそ　つ　ゑをぐふもちがゝ　ひふハゝぐ　ゝるべく
才一　云拾
日がこゝろもちゝ　べそ　ゝ　ゝ　ゝ　日ゝ　ゝ　を　ゝし　つ
古十三
ゝさハ　とたなをんゝ　を　ゝ　ぐり　つ　思ひ　ぞきえて　ゝ
後拾九
今ゝ　ハゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　つ
古十七
日がこゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　つ

○ぞのを一

中

ぞ　の　や　何

左

そ

古十一
ゝのゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ぞ　う　ゝ　つる
日二
ぬゝ　ゝ　ゝ　ぞ　ゝ　ひて　ゝ　ゝ　つる　毒の肉ハ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
世物語
ゝも　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

落 寝 得 寝 徒 右

さる　ぬる　ふる　中

さる　ぬる　ふる　右

此度より下井戸一度まで。合せて十一度。右の行れ[illegible]徒の徒

いとをくきかふ。をべてハ畠ゑ[illegible]こ[illegible]ハ[illegible]ま花そ[illegible]ゑあ

しりたるげりるをバ。[illegible]に[illegible]ひ[illegible]く出せる。

右

徒

ぞ

百十九 秋山乃おををかぞ[illegible]ゑぶをれど浦ちゑみち[illegible]く[illegible]いまぞ行うゑく[illegible]

古二 ゑすこ[illegible]ろ[illegible]ゑ[illegible]山ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]

後六 秋の中ばの高ゐおろしに吹きみだれつゝ人をもなびかすつ　や　ふる　ぬる

古十四 たが　星によがたをしてゝ明るくぎをたゞ出ふしも稀なるこゑ　ちる

後五 秋のむし〜　なく　ちゝ〜らふ蔦の　ちる　彩しく信ふ事やもとゆく

拾七 永宮ゐ芝の柴ふのこゑゆるゝてふのいろ　ある　紅ゐわかりを　くる

拾三 郭〜ゐむとて思ひきてしいぬる夜ハいをぞ人乃いをやとく　ぬる

拾十九 ゐのりとても　いく　よろハ　ふる　かゝゐれゐゐ物をもとめ分をもとをてん　ふる

古十一 お坂の冥〜なゞゐしいそ〜ゐいそぐ　ゐ　ちる

拾十一 ゐとも　ゐ　ハゐぬ人ゐゐゐるやまひ　ちれ　わゐひゐ〜でハやむ涙ゐ〜

古十三 ゐぶきで高〜き時ゐ仮の〜引の山より月ゐ出ゐく　ゐ　くれ

後六 年を経へゐ〜菓の下ゐゐゐて〜ゐ老ゐゐふゐ〜ゐで　ゐ　ふれ　ぬれ

○歩古二段ゐ歩五段ゐ合せて仮ぐ

○歩古三段ハ歩四一段ゐ合せゐ〜あぐ

徒

全四 みむろ山ゐ紫ちゝし袖人の変化をぐさゐ〜繪行ゐとか　く

古八 立田川ゐ〜きゐりゐ　く　神無月ゐぐゐとのゐをたてぬきふ〜て

右　く　ふる　中　ふゐ　左　歩古四段

○玉のを一

中

ぞ	の	や	伊

左

幸

古五 秋ちるもみぢをながすゆく秋をたれぞ立田川 ぞ ぬさはたむ る

月四 きみをおもへ〜ばしら〜えつく ぞ ゆきとぐる 男山かも〜たてるとも思へど

好九条 玉垣のみ川の湊ちかきあまぶねうふ人 の 花ぞ見むむ る

拾遺二条 みてぐらのきつやいまぐ社川 流れ水ぶもぬさ や たむ る

千五 心をぐり時雨 や ぎる 松ほの浦くるきげば秋のあまう る

右

徒	ぞ	の	や	伊

左

幸

百 赤ちる〜日をはうみし紅ひるはぞ秋らへどいや痩ら〜や 幸

千 心ざ〜〜かちく〜ちそ〜るうりうをばつ〜き抽ら〜ほ ぞ ちる

彩勅十二古義公 紅ふ出て今 ぞ ちる 人ちぶぞ思ひ見ぶつる抽ちろを

月後条 ふく風 や ちる ちる 人ちの心をふ行るぎる花乃ちる者 る

房十六 白ぶ風ど風 いつ なりしてちる〜社ちをあしぶ〜ふ社ふおこ ちる

六ろ条 秋くいへぞ〜づ〜明ちり小萩原庵社ちを 了そ 花ちまう ちる

あそ

源氏絵合 さうし こそ ものひ さ〳〵 まき 咲ゆゑ ちふ花も紅葉をつゆあらぬよを

法 右 法ふ 中 法き 左 寸 六帖 寸ハ六帖の法ハ寸と ハ異ちり

好色系 老ゆくるふひも寿をのぶぞり系ち寿ふ ぞ ゆくハそ不 づる

拾十二 寿ち〳〵の川と ぞ つひふ宗き いで西おりふ人のおうぐハ

つる

法十 雑俵ぐさかりつむ芦のかり〳〵つぐれ一寸を寸を系 や 乃ぐ つる

源氏掛 九寸〳〵寿 や へぐ つる 寿の上乃月ぬるふおりひやる式

六帖 みらゐみち浦の浜ゆふ いく くるゆ系をバ系ぐおりひへぐ つる

法拾十九 こやこるハ たき をう系ハ ひい づる 拾の人る系をちふ光ると

ぞ の や 伊

中

左 寸 六帖 おりたてバ寸 こそ それ づき 寿ち田のふゆかくるゆも今ハや光てん つき

右 え 拾七 寸ち ぬ 右 ぬふ 中 ぬき 左 寸ち七帖 寸ち九帖のぬ考 えハ異ちり

源氏宗本 うれ寿ち拾くもきく〳〵ふ毎ふやゆ〳〵寿ぐをうてりふ ぞ ぬる

拾十三 寿〳〵寿ふ ぞ たづ ぬる おくふの日新の寿ふ独るぬき つく

中 ぬる ぬる

や の ぞ

左

何	そ

中

ぞ	の	や

万十一 たき ぞこのみなもに玉づくもまくふんぢのをとづのをとあづ ぬる

ぬき

ふ 右 ふる 中 ふき 左 寸九八 佐

新勅九 恋三 ふあぬるてきをとる衣の赤玉とのをく ぞ 袖を弟小沈う ふる

四十七 ちつきけうしひ ぞ わがをきをうちそ ふる うなよの美乃さむら 拾よ ふる

徒皇系 きみのえ徒多神る松のよハひをバつるくとは やうぎく ふる

左

何	そ

千四 きみをべく後ケ一あ や おきそ ふる たをれバいろ袖のあをるく

云拾 ちぐめまく一ちのまくふうるむさ一後 いうふ のをバうふくハたが ふる

万八 ちふ くうをちくうこふる 部玉ゆ一をきけバ恋こそまをれ ふき

住吉方々 ふけうう氏吉ま こそ 巻ふあ ふを うべ住よくとにをもつひをと

右

徒	ぞ

万十九 はるくぎすいまきなきそ む あやめ草かづくくよふうく日にうあや

五十八 号中そいづをうさくてをどあ一ん ゆきとまるを ぞ 袖をうぎ む

後十九 おさへつく系ハ神ふ ぞ せきとむる 船こをとをれにるさくとを思へバ

む 右 むる 中 むき ナ 寸九九 佐

○むのを一

中

の　や　仮

右

そ

た

ゆ　右　ゆふ　中　ゆき　左

寸三十位

中

仮　や　の　ぞ

右

徒　も　た

○ものを一

○ものを二

左

仮	幸そ

後十二 こがらすたきの ふる いづき うハめ ふ もん ゆる 幸ふこそきけ
永禄二年 月西ふ ちをれつ ゝ ゝ 新こぬ と ふ ゝ こそ ゝ ふ も 笑 ゆき
古一 ふるうと ち ま てそ ゝ ゝ と おりて ゆき ゝ ゝ ぶ 神 ふ 見 し 宿 社 梅 ぞ と し

右

徒	も	た

ぞ

一 ふ 右 ふ ゝ 中 ふ き 左 井竹二脱
新川後 宮ゆ ゝ て 稼 と ふ る ハ う ゝ ゝ て さ す が ふ お 紫 ち る そ 皆 ま る
古十八 月 夜 よ た こ な 人 ま と る ゝ ゝ ゝ ん ゝ り ゆ と ぬ ゝ ゝ ん ま び つ と 行 ん
六百五十 花 そ る ふ そ の そ ゝ と と そ ゝ ゝ る ゝ ゝ 祐 賀 ハ 虫 の 新 ぞ 恵 ゝ に
古八 立田川 り み ち ど も ふ ゝ る ゝ ゝ 非 ま び の み む ろ ま 山 よ 時 ま ふ ゝ し し
四十七 天の川 き ま み を そ て ま り と で そ ど 尽 ぞ な ゝ ゝ

中

仮	や	の	ぞ

幸そ

拾十三 文 衣 う す に ふ ゝ ゝ ぞ 教 ま る ゝ ゝ ゝ と へ ま し も 月 に ち ゝ ん だ
中勢集 ゝ ん 乃 ま 秋 ふ う ゝ る 都 ふ よ と ゝ ま 佐 保 山 の ゝ ひ や ら る ゝ
古十八 夢 て ゝ ど ふ ま る ゝ か ゝ ゝ ゝ り ゆ く ハ 西 や い を 保 ぬ 人 や ゝ て る ゝ
北口六百 ゝ ま ど ゝ と 今 や ゝ う ゝ ゝ 天 川 ゝ ゝ 春 立 て ゝ ま ち ま く な る と
古大 い く よ ゝ を ゝ ゝ じ 永 月 を ま ぞ と か く ゝ ゝ る ち ゝ と ふ 思 ひ み ど る ゝ
大和物語 ん ゝ ち ゝ ん ど も た き と ゝ ま り て ゝ こ ひ ゝ る ゝ ゝ ま ど ゝ ゝ ま ち ふ の ま ゝ め や
元十二 雪 ち ど ゝ く 新 ふ た て ゝ ハ 形 う ゝ ひ ど 風 の ゝ て そ ま て ふ ま ど る き
いせ集 り ア と ま せ ど ゝ る ハ 拾 て そ れ ま る き ゝ ゝ ぬ る ま と ゝ ゝ ば ち ん と 思 へ で

左

う 右
う ふ 中
う き 左

井竹二脱

〇ゑをよりてハ二轉し（いつゝがごゝろ）

く（右）　け（左）　ゆ　ゑ　ゑ

十二　みべちゝく　ゑ　ゑ　ゝせをバうゞひとの　ちゝ　ゝ　ゝ　を　うをあくき　く

後十　思ちんと　ゑ　ゑ　ゝ人　ゑ　うをとき　く　ゝひ　ゝ　ゝの　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ん

十七　ゆちゝく　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

右

の	ぞ	徒	も	た

十七 右

せ 右

第四段

源氏五
よとゝ山のそばにあるまくずをの〳〵炭がまりうえさせ

た

ゐ十六
玄の黄なる山下あるーやとるよ八月さへまのいちりを ぞ さ

右十二
あるうるる後 ぞ 神ふ見るる せ あそせきこゝへぞ流つせるれば

た

右

や	伊	宮	し

拾遺
ちぢ〳〵ぎの苔ゝる孫きゑぐさを や このみる月は氏ふかぐさ た

後撰
うゝ風 や ゐるゝふ信こ せ 演奏は孫よゝゝるまて鳴るゐゐ郎

狭衣
えゝくかゝるふゐりゐばさてもやむべき波 ゐぐ 二そふおりひゐやま せ

坂川る
ゝゝふ人もちきゝ山星は清斉生はこゝろ話まく仁ゐゝり ゝそ ま せ

後云
あゐゐ〳〵ぬゝとゝゝ〳〵ゝへど秋のよをかく ゝそ ゝゐゝ せ おきぬゐゝ〳〵ふ

つ 右

て 右

第五段

つ

○巻のを一

○巻七

右

を	徒	ぞ	の	や	何

出典不詳
みちの秋は月と雪とをなる秋より花の時さへ面白しゐ

つ

後拾
天川いさ出さ浪乃さちおつ秋の七月れるふさ

ぞ ま つ

古十六
ちのみそぎ為てぞ生きぎつ白川も恋ひ受までのみふこそ有れ

後拾十一後歌
人恋ぬんやうよてあとやゝん わ〜ま〜ごとの

つ

六帖
ちくんまごつがわろ月を山端のさちれ里ゝはおそ〜とやまつ

つ

左

仮	宮	た	を	徒

左右
玉城世はあ行ちのふ萩あをを玉み風をまつでく恋をこそまて

拾四
人ちまるぞ恋ひ こそ ま て そ〜ふべき人をき宮ふ物まるさ〜を

ふ 右 へ 左

出典不明

金葉
くりあれ恋はあるれ行またる秋月の里を ふ

乃十六
りみぢだく今を ふ ろつろふ ゝとだとこがまゝんといひ〜ぬのへゆけバ

後拾四
こよひ〜も恋る秋月 を ふりそふ 秋のみ山を見ひてそやき

後拾十 後歌
わきゝ恋は代の姫乃わそひ山天てる神のふりさ〜そふ

右

徒	ぞ	の	や	伊	左

左八 わうぶ〜てうう〜 後撰よみ人しらず ふ
ふきそよぬ〜人きいへどもうぐひすのゐねうぎりはわ〜じ〜 ぞ 品 ふ
月八 ひるぶこのきづも〜と ぞ 千五 ゆハおも ふ
夕秀や秋のひはこ〜ん 後拾十一 ふ
〜ものむらに金はのづる 後八 ふ
秋は月ぐ〜と や 古四 ふ
きぐが秋よりぬ〜ぬ 千云 ふ
ふるむ〜ふをひ〜〜 左八 ふ
秋萩乃ぶ〜ぞ 月一 ふ
〜ぞ〜ぞ〜ば 左 へ 梅花ぬ〜〜やう〜〜ぶ

右

ぞ	徒	も	む

む 右 光 左 光 七 辰

左七七 いせ物 いかりかるきもでの田ぞ 物 む 恋住 里 ぶ 品 ぞ む
千十云 ぶ〜ぞや 西つ〜 秋のう〜〜ぶてあ〜ぶみやこふ月 ぶ〜ぶ む
左十七 い〜〜への水中 ぶ 法 水 ぶ 物 ぞ く む
月十八 ぶ〜ぶいれハみやこの〜〜ぶ ぞ む 〜 ぶ〜ぶ 人きいふ

左

の	や	伊	幸	太
む	や	む	幸	太

後五十七 世五十ア
よくとも海よりもいろいろけんかうやくとハかくるみぎをやけむ

後五十八
けもとものきつねをやしての山秋風はらふをれ秋ハ寒もなくし

万十九
幸まけてりのがれしきふさよるくちづりるく略たが因ふるさむ

後五十九
くるあだくに なのふうくやむ幸のまれる弦ハおろしとせど

後一
幸はみふねをぶをやらぬ身を差茶ハつまで幸をこそけめ

後京極衡家
ふりハ枝こそたるめ幸はなかなかおくやまくん

右

そ	を	徒	ぞ	の	や
ふ	き	た			

後一
いづこ花幸はむりハとるくふまどみりしつひそ幸ふる

井出八段

後十五
出でろはけはなの涙を そえ ひや る いろる彩うるおちくふやん る

後九
女ぐるとまんふを かく る 白髪のおろる紅やきえハちらん

古十七
なるふんがるまれみちろひしるる衣ふるるつけたびるき波る

万十六
おきべるるふる人のび る よびるせていぶ吉やらん袖のいろり紙

古十七
ちきちるる風のまるむえろひおるてよるれ時の風よぞ る

月十八
はくるるひはこの本でるふたちぞよる 幸はるやまの袖を高つ

月十九
雲乃幸て高はぬきこそるかし 山のふきの おばづち る

後三
幸ふるるるしつる袖をはくるむりやちちるく や ぬちるふる る

月四
風はるぎるときてハ嶺と や 明るく る 彩るつるとはを紅袖を

左

何	そ	た	と

左十八 雛ぬぐさうしもべきまもおりてぞ いづこをみれのうゑしうへ花ぞ

左十九 花ちるこの風のやどりハ たきうえる ゑふ義へよゆきて拾らん

左二十 あけそバ梅のをりまへ咲くしようるハちるのりえ こそ ほるき

左二十一 きるこねぞちひ こそ まるき ゑ みるせ川ゆゑ法めそ思ひそめきん

ん 右 光 左 対世み限

こまより下五段のそめる詞ふ。むりとかぞてぞ。ぎんしのこちるハ者世限の。
ゆゑふむ。唱る言。まぎれざしりん。そにとそ。うゑ。実ハ。もべ。

左八 ゑがゆ。ゆ。ふ。ふ。ちる。ふ。ゆ。ゆ。ゆ

左

左

同九 夕月夜ふぐつうきをみうしぎ二えけ浦そこけきて こそ こめ
同十八 吉野川うしや人 ろそ つ〜かうめ まくいひそ〜たくそうそうぐ

らん 右 らめ 左 井口十時

し	を	徒

古六 雪立てうぐそう〜かるけ昔のけ〜みの系 を りみぐ〜ぬ らん
拾一 橋ふそ〜ふ雪 を 作くまうぬ らん ん ふ ま〜て 花を 〜先バ
後十古 ひぐ立〜立ぐけくり波をまれねぐふ ま〜雪 を 立ふきを らん
拾七 みう〜生 を ま〜つひ らん ま れひ〜の橋系ふ〜て日数をゆれぐ
後七 ひひ生ま〜ふ〜はあひ 秋ま〜ふ昔のうぐり波ま〜ふ なる らん
後拾四 いぐ〜しく春きう らん ま〜ぐ〜の稲ぬふあ〜ふ古けね衣

右

ぞ	の	や	何	空

古七 春日野作ひ〜ま〜つく系代をいふ〜ぐ〜ま〜ふ作 ぞ ふる らん
後十六 菅葉けまひふ ぞ 人ま〜ふ らん ふ〜ま〜こひぐの中にあひつ
大和物語 山里ま〜ふ春をうぐめて系ま〜ふ の ま系けまふ〜作くまる らん
古一 神 ぐ〜ぐま〜ひ〜ぐけ系ま〜ま〜ま〜ふの風 や ふ〜 らん
同四 明ま〜ふ〜ふ春のまぐ や おちつ らん 祝ふ系け春の上乃系
同 ま〜みあべ〜秋のみ〜ふ〜ちあひ〜ひ〜ふを 大き ふ〜ま らん
同二 ま〜ぐ〜ま〜 ま ふ ふ〜ま〜 ら ん 橋系ふ〜ま〜ぐふ〜ふ〜ま〜ぐ〜ふ〜ま〜ぐ〜ふ〜ま〜ぐ

右

の	ぞ	徒	を	え

きん 右　きめ 左

廿四十一段

後十七 うゑとそそ〜風もしさつ〜ぬ苦はいろふ赤ハあ〜生ま [を] りゐと [きん]

後十六 花ゆゑ四つ〜ぬ [を] ま〜ひ [きん] 見ひ [illegible] びもう [illegible] る [illegible] 郎

後十八 あそ [illegible] そ [illegible] そ [illegible] ぞ [illegible] たて〜いふ〜へを [illegible] ま [illegible] ま [illegible] け [illegible] と [と] 見ハ [illegible] ざり [きん]

源氏柏木 [illegible] き人 [と] おりそざり [きん] 三 [illegible] ち [illegible] そ〜夕の [illegible] 見き [illegible] れ [illegible] そ

古十六 よ [illegible] ふの [illegible] き [illegible] ま〜 [illegible] を [illegible] ま [illegible] ね川〜 [illegible] る [illegible] と [illegible] し [illegible] み [illegible] れ [illegible] め [きん]

月佐来 うの [illegible] を [illegible] の [illegible] 月 [illegible] 東 [illegible] ひ [きん] 三 [illegible] 見 [illegible] と [illegible] り〜 [illegible] 郎

千みち [illegible] 見 [illegible] ぐ [illegible] ん [illegible] 代の [illegible] [ぞ] ふ [illegible] を〜 [illegible] ひ [illegible] ま [illegible] ひ [illegible] め [きん]

後九 う〜 [illegible] じょう [illegible] そ [ぞ] 別き [きん] 三 [illegible] ふ [illegible] 雑 [illegible] の [illegible] 庵 [illegible] ま [illegible] み [illegible] き

万十七 清 [illegible] 生 [illegible] 百 [illegible] 本の [illegible] 乃 [illegible] ち [illegible] る [illegible] ひ [の] わ [illegible] ふ [illegible] び [illegible] り [illegible] 見 [illegible] し [illegible] 後 [きん]

左

や	伊	そ	え

後十七 [illegible] ち [illegible] ハ [illegible] か [illegible] き [illegible] そ〜 [illegible] と [illegible] ぐ [illegible] 玉 [illegible] け [illegible] ど [illegible] 見 [illegible] 髮 [illegible] そ [illegible] で [illegible] ぞ [や] 有 [きん]

左三 [illegible] 山 [illegible] 千 [illegible] 三 [illegible] 人 [や] 八 [illegible] 千 [きん] 三 [illegible] 見 [illegible] り [illegible] た [illegible] く [illegible] い [illegible] な [illegible] く [illegible] 新 [illegible]

同十二 [illegible] 本 [illegible] の [illegible] そ [illegible] の [illegible] 中 [illegible] 山 [illegible] る [illegible] う [illegible] く [illegible] ふ [illegible] ち [illegible] ふ [illegible] 〜 [illegible] 人 [illegible] を [illegible] た [illegible] り [illegible] ひ [illegible] そ [illegible] あ [きん]

同十三 [illegible] る [illegible] ぐ [illegible] 川 [illegible] [illegible] ふ [illegible] み [illegible] る [illegible] ま [illegible] を [illegible] ま [illegible] ぐ [illegible] ひ [きん] 三 [illegible] 袖 [illegible] ふ [illegible] 時 [illegible] の [illegible] ま [illegible] ぐ [illegible] 身 [illegible] り [illegible] り [illegible] と

後十一 [illegible] か [illegible] 〜 [illegible] 衣 [illegible] 半 [illegible] 川 [illegible] き [illegible] 〜 [illegible] み [illegible] 〜 [illegible] ん [illegible] こ [illegible] を [illegible] 二 [illegible] も [illegible] 〜 [illegible] 山 [illegible] の [illegible] 笑 [illegible] と [illegible] り [illegible] め [きめ]

左十七 [illegible] う [illegible] ま [illegible] で [illegible] の [illegible] 形 [illegible] え [illegible] そ [illegible] て [そ] そ [illegible] ぞ [illegible] え [きめ] 三 [illegible] 海 [illegible] そ [illegible] う [illegible] ぶ [illegible] り [illegible] ぐ [illegible] づ [illegible] り [illegible] り [illegible] と

左

え

なん 左　なめ 左

廿四十二段

左十七 [illegible] か [illegible] 〜 [illegible] そ [illegible] み [illegible] 山 [illegible] ぐ [illegible] ま [illegible] ま [illegible] 枝 [illegible] 赤 [illegible] ま [illegible] 三 [illegible] ま [illegible] ろ [illegible] を [illegible] 花 [illegible] ふ [illegible] き [illegible] ば [illegible] り [illegible] ま [illegible] ん

同十八 い [illegible] ざ [illegible] ま [illegible] て [illegible] ふ [illegible] 赤 [illegible] 芸 [illegible] を [illegible] 反 [illegible] ま [illegible] く [illegible] 伏 [illegible] 乃 [illegible] 星 [illegible] 行 [illegible] と [illegible] く [illegible] も [illegible] 法

右

を	徒	ぞ	の	や	何

同廿六 ゑぞおきてつぐ〜ゑをとぐりくバ未の杉山波 と ちうん ゐん

同廿七 いつぐ樹うゑと ち ゐん ゐそさうりうう衆人よりゑめうしゐん

同十一 人〜ゑびゑへぐゑ〜ゑをあけまつむゑのうろふいぐ ゐん

同十八 何〜引の山のまふ〜かうと ゐん ゐうしよみ中ハあるうひもゐし ゐん

新千十七 小て今世 ゑ〜くバ紀のまゐ ふうぐひをの何てぐ きゐん ゐをちうを

新十六 何ちうと あうう〜〜ゐふのうゐ美 の ちに見ひふむゑぐれ ゐん

右六 立田川 ゐの紫みぐきてゐぐうう海〜バ後中 や ゐうえ ゐん

後云 秋のゆふよると や ゐゐん ゐ女ゑむをゐをゐをのゑ見ひうけつ

後拾十五 ゐゐをとう〜ゐうも若〜紀をつぐう いう ある方に見ひたえ ゐん

左

何	堂	て	を	徒

拾十六 いづ うふゆきうと ゐん ゐ常に対ゐあはバこそ人も法うるま

右十九 よのあうたうたゐびぐふ対をゐぎバ海さ谷 てそ 遠くあうゐ ゐめ

同右 何ぐそ てそ ゐゐん中はをゐと ゐめ ゐそ波ぐふ後のうすぬぐうふ

右 てん 左 てめ 月四十三 後

後十三 海みぐう傑きん松乃くえ海ふ〜何〜バうとゐ雑ふも波 を と せ てん

右十四 粉をこ〜ゐの紫今 を う へ〜 てん ゐぐゑ〜ふうはバゐよぐゐうゐ

拾十九 何うそをいくよゐバふる ゐうゐふ結うゐ〜ゐ雪をゐ対を と ゐぎ てん

六拾 ゐすゐぐバうゐ と〜 てん ゐ三海の山をう〜に極〜枚そゐくを

右十八 ようゐゐをバうをそをまをれ みよ〜結〜岩のうをそふをゐうし てん

右

徒	ぞ	の	や	何	

左

後二	ちらくゝ雪ゝ竹のよくゝえ [てん] 竹の一ようは強そ〜ちるとも〜そなれ
左一	いろとしえて枯むぞうくゝ紅うつせこのよをばすゝと [や] 見ひそ〜
後三	見てのこ [や] 立ちし [てん] 〜さくゝひちるをゝ〜むふうひ、きゝれば
左一	雲日世のうぶむの世る出てえよいま [いく] ちるてとるをつこ
後三	山ざくゝんのいろ紙 [たき] ゝこ [てん] 〜いくよの花のそゝふやゞゝば
左一	ちりぬるをばゝふをゞ居しきき物をゝふ [こそ] 枝をゝばをゝて [め]

[てん] [てん] [てん] [てん]

左

徒	ぞ	色	色	色

○三轉の外

先ハをゝゝうな詩うて上の四十三段の辞のごゝくに。三つをも二つ示も詩ゝうゝ。なゝ〜 ゝと続のかゝり。

[まゝ]

左一 よの中に生ゝえて桜のなりせで春はこころを [を] のどけかゝ [まゝ]

後十六 松ゝゝば初ゝ人々ふ [を] ちりぬ [まゝ] 世のみどりぞひなりゝる

左二 花のごゝ世はつのきゝばるゝて〜ひゝ〜ハ又 [色] ゝてきゝる [まゝ]

同十七 色えんぞバ色〜きゝ〜 [色] なゝ〜 [まゝ] 春ゝぞ人をきゝべりゝる

後十七 思ひおゝ立ゝ春ゝ〜 [まゝ] 春を惜ちりての後の松出なりせば [まゝ]

後七 ゝ〜治山の初紅をえんぞバ世月はるゝゆゝ初をもゝ〜 [ぞ] あら [まゝ]

ぞ　の　や　何

古一 ふるさとぞ　ぞ　やりをる　ま　清ぞハ有ると花とえまーや

ま

古一 春ごとバ有うてるちり水そのみちゆきぶりふこと　や　はて　ま

後土 いるを春ーゆきて　や　えま　ーはの雲水やもをてふ浦のそりの波

古一 うぐひすのふふりやるこふをるくバ春ふるとこ波　たま　うちう　ま

後五 波ふハ出ぬ　いりふ　うせ　ま　花ぐーにみを秋ふふてやそそん

□そふをまーと結ぐる例をー。但ー中者ちうに。まーうと

結ぐることうれあるこその結ふ如せると

ら

○

た　を　徒　ぞ　の　や

古六 三田川ーふらをあそーふ山のりみぢと今　を　ちる　ら

古四 さよ神と乗　た　文ぬ　ら　ーー居ぐの結ぐ雨る文ふ月ふーるる

新十一 春風のふくふをまーる浪う邪ーうぐみるかー　を　こちりそー　ら

原氏をとめ をとめこ　を　神さびぬ　ら　ーー左は紅るーるきょの友よりひへぬまぐバ

古八 春ーりさ川ーりみぢ紫ぐる神ひびのみむろのふよちぐをふ　ら

同六 みうーー生の山のうーを立つり　ら　ーーふるはををくーー成まるるし

同 山ふのーりみぢぐ取ぐるたく山の雲ぎのふ　ぞ　いまーさる　ら

同 ふる雪ちうー　ぞ　雨ぬ　ら　ーーふーー月の山の波つ波ふとまるるし

建保四年百首交歌 ふまぐふ生べの雨ぢ雨を神うけてみるを結人　の　かぎーを　ら

新勅撰後鳥羽 ふるちぐそうたつの波ふ雲ぐーー丸雪むーへぶふみー　や　ふぐ　ら

や

後拾三 きてつる やとれ[illegible]孫なる らし[illegible]時をおいて孫ざとそこめ[illegible]

赤染衛門集 東路やとづる秋はをくちをへて いくへの雲は下ふるらし

詞花 寛和元年 [illegible]時西ふる秋山里 いりあらし[illegible]ともむ人さへや独のゆくらん

伊

後拾 松の孫千年のまつへをまつせてハ三田作 出そ 秋をむく らし

古今七 ぬきみだる人 こそ 行らし[illegible]ちるもまるくもちるる独のせだれ水

[illegible]を接ぞのや伊こそ[illegible]いづるの結びをとるるハ。らし[illegible]のを

そ

よして。他の詞ハ伊なきことなり。

た

古 梅がえふかゆる雲をうけてなをたいまぞ雲を ふる つ

徒

と

後八 ゆるたゆるの雪を花とぞ[illegible]つる[illegible]ぶむる 永 を ふるひきえ つ

古今 やどりせ一人のかさミう[illegible]ふぢぞ[illegible]ふるれがこたうふるひ つ

同十三 花ぞ[illegible]ふるふ雪[illegible]こひバ名をしみ下ゆふ雪も の むもぶき つ

拾十六 う色の雪をようさふふ[illegible]きしうどる人まれふ者 の 後 つ

[illegible]たくの上を[illegible]たのぬくを[illegible]を接のうり。ぞや伊こそとかるを

てハ。たくと結ぶ伊なし。又たく[illegible]ハうばるてハ切をざる有

ふ。ようぞうて結ぶる方なし。

右をいづれも下にをふくえて結ぶたく[illegible]。ひ[illegible]にて[illegible]伊

たく[illegible]ハ切をぞる結をばバ別し。そをハ古の歌のたく[illegible]の結より出せり。

の

かな

○

た	を	徒	の

拾六
うれたがく消せぬりのそ分うりとうゝやすゝしに【た】あの法【う】
後十四
ちゝ吉のりさ【た】つりとる呂ひ【う】ゝ[illegible]ぞふる歌の徒もへゝく不
古一
をちこちけすとづきとちゝねゝ山中にあぞつゝる【を】ようぞこゝる【う】
四四
をみぞゝしゝしろゝとく【を】ゝる【う】あきゝゝる宗不独ゝゝそれぞ
四十
ちゝねゝ山おゝふきゝつゝけふ板乃雲けちゝうゝふ寺をゝる【う】
後六
ゝゝゝぞゝふ仏ゝゝる拙【う】ゝ【ゝ】女房歌より和にわふゝれもゝゝ
古四
ゝ人ふゝゝゝぬりのゝゝゝ神名けゝさ吹ちゝ【の】めづしき【う】
後十
ゝとかゝをいふゝの歌【の】ゝしぬ【う】ゝ【ゝ】いづゝハ春のかゝゝぞゝろゝ
【】
ゝゝの上ゝゝのゝゝくゝゝゝとゝ法のゝし。ぞゝや仏ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
【】
かゝゝゝゝぶゝゝゝゝ。ぞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ふるゝをとゝ。ハ。ゆ〻しにてふまゝそのゝ〻へをこゝやまり。こゝろハ訓の得きてる
をゝ。そのまゝにゝゝゝ